令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果と対策　　挟間中学校　　３年

※全国平均、県平均との比較を◎（高い）〇（標準）△（課題）で表しています。

　　　　　　　　　　　　　 全国比　 県比

【国語科の分析結果と改善のポイント】

・「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」　の領域以外は、概ね目標値に達してい

　る。

・オリジナル短歌の作成など、生徒の思考　力・判断力・表現力をつけていくための　具体的な場面の設定を行っていく。

・教科部会にて、R6高校入試問題、全国学　調問題等の問題分析を行い、授業の「め　あて」、定期テストへの反映を行っていく

・教科部会にて、テスト結果等の分析、対　策の協議を行い、一人に負担が偏らな

　い、チーム（教科部会）による組織的な　対応を行っていく。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 国　　語 | 教科全体正答率 | | 〇 | ○ |
| 領域別正答率 | 言葉の特徴や使い方 | 〇 | ○ |
| 情報の扱い方 | △ | △ |
| 我が国の言語文化 | 〇 | ○ |
| 話すこと・聞くこと | △ | △ |
| 書くこと | 〇 | ○ |
| 読むこと | 〇 | ○ |

　　　　　　　　　　　　　 全国比　 県比

【数学科の分析結果と改善のポイント】

・全領域において、目標値に達していない

・付けたい力を明確にした（評価規準を明　確にした）「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定を行う。

・数学的な表現を用いて説明したり、筋道　を立てて考えを説明する場面、数学的な　表現の意味を、事象に即して説明する場　面を設定する。

・基礎基本の定着をめざした毎日課題を実　施するとともに、夏休み・放課後の個別　の補充指導を実施する

・教科部会にて、R6高校入試問題、全国学　調問題等の問題分析を行い、授業の「め　あて」、定期テストへの反映を行っていく

・教科部会にて、テスト結果等の分析、対　策の協議を行い、一人に負担が偏らな

　い、チーム（教科部会）による組織的な　対応を行っていく。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 数　　学 | 教科全体正答率 | | △ | △ |
| 領域別正答率 | 数　と　式 | △ | △ |
| 図形 | △ | △ |
| 関数 | △ | △ |
| データの活用 | △ | △ |

【生徒質問紙より（分析結果と改善策）】

○学習の必要性は理解しているが、学習時間に結びつかない傾向がある。分からない事柄に対　して20％の生徒が「詳しく知りたいとは思わない」とあり、テキストから情報を抽出する　読解力、または、それを身につけさせる学習活動が日頃の授業の中に不可欠である。具体的　には、図表や新聞記事などの資料（非連続テキスト）から、素早く目的に合った情報を取り　出させる活動などである。

○興味関心を引き出すべく、自分の生活との関連性に繋ぐ工夫をする。